

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第2回 福津市立図書館協議会	
開催日時	令和6年2月28日(水) 午後2時00分から 午後3時40分まで	
開催場所	福津市立図書館 研修室2	
委員名	(1) 出席委員 安德尊博、河井律子、木庭竜之助、小松益子 清水光朗、立石たかね、藤吉有里、山口尚志 山元悦子 (2) 欠席委員 田島勝彦	
所管課職員職氏名	溝辺(市立図書館長)、森(カメラステージ図書館長)、大村(市立図書館主幹兼図書サービス係長)、堤田(市立図書館サービス係長)、東恩納(カメラステージ図書館司書)、田中(市立図書館管理係長)	
会 議	議題(内容)	① 令和5年度図書館の事業報告及び利用状況について ② 令和6年度図書館の運営方針(案)及び事業計画(案)について
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	1名
	資料の名称	・会議次第 ・令和5年度第2回福津市立図書館協議会協議資料(運営方針・事業計画、利用状況等) ・令和5年度福津市図書館利用状況 ・福津市電子図書館月別利用状況 ・令和5年度図書館利用に関するアンケート集計結果(中間報告)(市立図書館) 令和5年度図書館利用に関するアンケート集計結果(中間報告)(カメラステージ図書館)
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	記録内容の確認方法 会議出席委員による確認 内容に相違ありません。 委員 立石 たかね ㊟	
その他の必要事項		

協 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. 開会のあいさつ
2. 会長あいさつ
3. 報告・協議事項

①令和5年度福津市図書館の事業報告及び利用状況について

(事務局) 資料「令和5年度第2回福津市立図書館協議会協議資料 1.福津市公共図書館の事業報告・利用状況」、「令和5年度福津市図書館利用状況」に沿って概要を説明

(山口委員) 蔵書数は宗像市や古賀市と比較してどうなのか。人口は同程度だと思うが、福津市の蔵書は多くないように感じる。

(事務局) 市立図書館に約20万点、カメラステージ図書館に約6万点、合計26万点ある。市立の開架室にあるのは7~8万点、貸出に2~3万点、残りは全て閉架書庫に入っている。

(河井会長) 検索すれば書庫にあることはわかると思うが、本を選んでいる時に書庫に本があることがわかるようなサインがあったほうがよい。

(山口委員) 近隣の図書館と本を融通し合うようなことはできないのか。例えばお互いの本を入れ替えるようなことだ。

(河井会長) それぞれの自治体の財産なのでそれは難しいかもしれないが、福岡都市圏内で他の自治体の図書館を利用できる広域利用や、他館から本の取り寄せができる相互貸借の仕組みがある。

(藤吉委員) 福津市の図書館で所蔵していなくても、他の図書館から借りられることを知らない市民が多い。積極的に告知をお願いしたい。
それと、図書館システムが新しくなってセキュリティーなど良くなった面もあるだろうが、利用者側からすると若干使いにくくなった。例えば、検索・予約・貸出をする時に必要な操作や画面が変わる回数が増え、途中で嫌になることがある。今後、仕様の見直し時などに改善をお願いしたい。

(事務局) 図書館システムに関しては利用者アンケートでも意見を多くもらっている。今後使いやすくなるように見直していきたい。

(河井会長) ホームページに国会図書館や県立図書館のリンクをはっているか。

(事務局) リンクはあるがわかりにくいかもしれない。もう少し目につきやすいように改善したい。

- (藤吉委員) インターネットを使っている人は自分で調べることができるが、使っていない人に情報が届きにくいので、カウンターなどリアルな場所で自然に目に入るように情報提供していくことが望ましい。
- (事務局) 最初に質問のあった蔵書数の補足をしたい。雑誌・視聴覚資料を除いた蔵書数が福津市が24万点、宗像市が27万点、古賀市が22万点で、概ね人口規模に応じた蔵書数になっている。
- (山元委員) 電子図書館についてお尋ねしたい。電子図書館の統計を見ると利用が順調でうまくいっているように見える。利用が活性化したのはどのような理由によるものなのか、また、利用者の内訳はどうなっているか。
- (事務局) 利用者の7割以上が児童・生徒だ。同じ本を一斉に読むことができる「児童書読み放題パック」を購入したため子どもたちの利用が伸びている。
- (山元委員) 学校の授業のような教育活動に利用したという情報はないか。
- (事務局) 相談は何件かあった。クラス単位で使用することは問題無いが、全校で一斉に見るような配信は著作権上難しい。
- (立石委員) 読み聞かせなどの読書ボランティアをしているが、今、大規模校は「図書館の時間がない」「読みたい本を自由に選べない」という環境だ。図書館には本が行きわたらない子どもたちへの支援を積極的に進めてもらいたい。
- (事務局) 大規模校では学校図書館への入室制限があると聞いている。現在は学年単位で教員からの貸出の申し込みを受け、それをクラスごとに回して利用してもらっている。今後少しずつ取り組みを拡げていきたい。
- (河井会長) 図書館として、教員への支援プログラムのようなものはあるか。
- (事務局) コロナ前は図書委員会や学校での研究集会に参加していたが、コロナで機会が減った。最近、研究集会などが再開されるようになり、学校の現状を聞いてきたところだ。
- (山元委員) 子どもたちにIDを配る時など、ガイダンスで学校に出向いてつながりを作れば様々な事が進めやすくなると思う。
- (山口委員) 目の不自由な人、車椅子利用の人など、障がいのある人の利用状況のデータはあるか。現状を踏まえた上での対策が必要だと思う。障

がい者サービスについてもっとPRして、誰もが利用しやすい図書館になることを望む。

(河井会長) プライバシーもあるのでデータはあまり明確にしにくいかもしれないが、使いやすい図書館になれば障がいを持っている人も利用しやすくなる。来館時に適切な対応ができることが重要だ。そのためには、カウンターで利用者に対応する職員が、どのような種類の障がいがあって、どのような対応が必要か研鑽を積むことが必要だ。手話ができる、というような限定的な知識や技術のことではない。漠然とバリアフリーといって様々な準備をしても図書館側にその使い方やどのような利用者に適しているのかという知識がないと適切なサービスの提示はできない。

(河井会長) 地域資料のデジタルアーカイブ化について、年間どのくらいの点数をあげているのか。

(事務局) まだ始めたばかりで、文化財調査報告書の中から世界遺産に関わる部分を4・5点と副読本の教材「ふるさと福津」、「津屋崎人形写真集」など十数点を電子図書館にあげている。

協議事項② 令和6年度福津市図書館の運営方針(案)及び事業計画(案)について

(事務局) 資料「令和5年度福津市立図書館協議会協議資料 2. 令和6年度図書館運営方針・事業計画」に沿って概要説明。

資料以外の補足説明

- ・次年度の工事予定(外壁改修工事・LED化工事)
- ・公共施設・小中学校への本の集積について(サービスポイントの拡充として上西郷郷づくり交流センターで予約本の受取と本の返却ができるように準備中、また、児童書の配本サービス拡充として、子育て支援センターなかよし、児童センターフクスタ、教育支援センターひだまりでも配本を実施予定)

(清水委員) 校内の適応指導教室に図書館の本を置いたら良いのではないかと思う。何か社会的な刺激になるかもしれない。

(木庭委員) 子どもにとって読みたい本があることが重要だ。大規模校では学級数が多いため図書時間を十分に確保できなかったり、児童数に見合った本を揃えられなかったり、子どもたちが読みたい本を読めな

い現状がある。電子図書館の浸透がその問題を解消する有効な手段になる。電子図書館の効果的な活用と児童向け電子書籍の充実を市の図書館にお願いしたい。

(事務局) 期限切れになった電子書籍の中に児童向けのものがかなりある。今後、児童書をいかに充実していくか予算要望も含めて対応していきたい。

(河井会長) 今、図書館は様々な学校支援プログラムを考えているが、学校の要望とマッチングさせるためには話し合いが必要だ。本日、協議委員として出席している2人の校長先生からも支援につながる貴重な意見をもらった。他の学校も交えて話し合いをすれば、更に効果的な支援をすることができるだろう。

(事務局) 図書館としてどういう支援ができるのか学校の話をよく聞いて、創意工夫しながら対応していきたい。

(山元委員) 学校図書館には司書がいるのか。今日の話の中に学校司書が全く出てこなかったようだ。

(清水委員) 常勤の司書がいるが教育関係者ではない。九州ビルサービス福岡からきている職員だが、学校図書館の運営について改善すべき点があるように見受けられる。

(河井会長) もし学校図書館の運営がうまくいっていないのであれば、公共図書館がアドバイスをするようなこともできるのではないかな。

(山元委員) イベントの中に大学との連携事業があるが、福岡教育大学の連携推進課でも講師派遣などを行っている。もし要望があれば講師を依頼することができるので活用してはどうか。

(事務局) ありがたい。是非お願いしたい。

(河井会長) カメリアの選書ツアーというのはどういうものかな。

(事務局) 参加者を募集して一緒に本屋さんに出向いて選書をする、というものだ。問合せは多かったが、8月に実施したせいか暑くて外に出られないという声もあり申込は少なかった。そのため次年度は5月に予定している。

4. その他

(事務局) 子ども読書推進計画の改訂について
令和5年度に改訂を目指していたが、福津市教育総合計画等の上位

計画の見直しが令和6年度以降に延期されたことや、読書バリアフリー推進計画の策定が必要になったことなどから、策定スケジュールを見直した。令和6年度は上位計画の見直しに合わせ、上位計画に「子どもの読書活動の推進」に関する項目を追加、読書推進計画及び読書バリアフリー推進のための組織を立ち上げ重要施策を調査研究し内容を詰めていく。令和7年度以降に子ども読書推進計画と読書バリアフリー推進計画を網羅した計画を策定する予定だ。次回以降の協議会で皆さまのご提案、ご意見を伺っていきたい。

(藤吉委員) 来年度視察に行くことを検討してもらいたい。他館を見ることで自分たちが気付いていない課題が見えることがある。以前に伊万里市民図書館に行って非常に刺激を受け多くの気づきがあった。

(事務局) 検討する。視察先の要望等あれば知らせてほしい。

以上。